

平成 29 年 1 月 4 日

各 位

会社名 株式会社大和証券グループ本社  
代表者名 執行役社長 日比野 隆司  
(コード番号 8601 東証・名証 (第 1 部))

## 2017 年 日比野社長 新春ご挨拶

新年あけましておめでとうございます。

昨年、2016 年は、国内外の政治、経済において想定外の出来事が相次いだ 1 年となりました。中東情勢緊迫の中、年初から原油価格が急落、そして株式市場は、大発会から 6 日連続安という戦後ワーストの記録で幕を開けました。その後、2 月のマイナス金利導入でも、円高株安に歯止めはかからず、6 月には Brexit により、日経平均は 1 万 4,952 円の年間最安値をつけました。しかし、11 月の米国大統領選でのトランプ氏勝利が、円高・株安トレンドを大きく転換させ、2016 年の株式市場は、いわゆるトランプ・ラリーで幕を閉じました。

大和証券グループにとっての 2016 年は、激変するビジネス環境の中、相応の成果を残した一年となりました。上半期連結決算は、経常利益 657 億円、純利益 550 億円となり、グループ一丸となって安定収益基盤の拡大・多様化、財務基盤の強化に取り組んできた成果が現われてきています。

本年、2017 年の内外経済を巡る展望はかなり明るさを増しています。とりわけ、米国については、利上げする程に景気の基調が強くなる中で、トランプ次期大統領のプロ・ビジネス、経済刺激的な政策が実行に移されることになり、米国のみならず、世界経済をリードすることが期待されます。日本でも、好調な米国経済、円高修正、原油価格の安定等を背景として、2017 年度の企業業績は過去最高益更新が見込まれており、良好な株式市場が展望されます。

そういった中、大和証券グループは、現中期経営計画の最終年度を迎えます。中期経営計画では、「貯蓄から投資の時代」の中で、業界トップのクオリティによりお客様を惹き付け、ベストパートナーとなる」ことをスローガンに掲げてきました。しかし残念ながら、「アベノミクス相場」においても、「貯蓄から投資」の流れが本格化したとは言えず、個人金融資産の過半、900 兆円を超える現預金という「大きな山」はまだ動いていないのが実状です。裏を返せば、個人の資産運用市場は、潜在的なコンサルティング・ニーズに溢れている、ということに他なりません。

内外の諸情勢に鑑みますと、今年は、我が国において 20 年近く続いたデフレがいよいよ転換点を迎える可能性、そしてその中で、「貯蓄から投資」へのマネーシフトに強い追い風が吹く可能性があります。個人型確定拠出年金「iDeCo」の加入対象者の拡大や、来年に向けた長期積立 NISA の創設に見られるように、「貯蓄から資産形成」の流れを作るべく、政府も本腰を入れています。

米国大統領の交代を機に、世界経済は大きく変化する局面を迎えており、多くのお客様がプロフェッショナルのアドバイスを求めています。大和証券グループといたしましては、「資産形成」が時代のテーマとなる中、証券市場を通じ、豊かな国民生活と日本の成長戦略に貢献できるよう、グループを挙げて取り組んで参ります。

本年も大和証券グループをどうぞよろしくお願ひ申し上げます。

以 上